

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3147744号
(U3147744)

(45) 発行日 平成21年1月15日 (2009. 1. 15)

(24) 登録日 平成20年12月17日 (2008. 12. 17)

(51) Int. Cl. F 1
A 4 7 F 5/00 (2006. 01) A 4 7 F 5/00 G

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 実願2008-7625 (U2008-7625)
(22) 出願日 平成20年10月30日 (2008. 10. 30)(73) 実用新案権者 503383608
アステックス株式会社
東京都台東区駒形 1-4-18
(74) 代理人 100104488
弁理士 杉本 良夫
(72) 考案者 小島 孝則
埼玉県戸田市美女木 4-23-6 アステ
ックス株式会社浦和営業所内

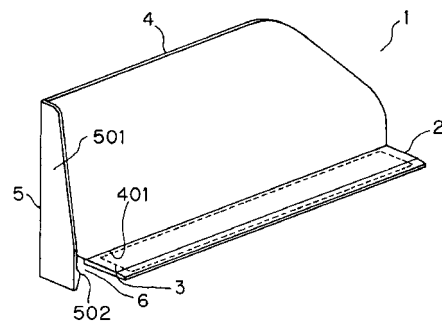
(54) 【考案の名称】 商品仕切板

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 プライスカードレールに係合可能な傾斜棚専用の商品仕切板を提供する。

【解決手段】 長尺で平板状の基板部 2 と、基端部 2 の裏面に装着されたマグネット 3 と、基板部 2 上に基板部 2 の面と直交する上方に向けて連設した長尺で平板状の仕切板本体 4 と、仕切板本体 4 の前端部分に連設した、商品陳列棚の前面側に係止されたライスカードレールの係合凹部に係合される係合部 502 を下端部近傍に有するストッパー部 5 を具備し、仕切板本体 4 は、基板部 2 に連設される下端部 401 の前端部分から斜め前方に向けてテーパー状に立ち上がったテーパー部を有する。該テーパー部の先端部分から上方に立ち上がったストッパー部連設部にストッパー部 5 を連設し、係合部 502 と基板部 2 の前端部分との間に空間 6 を確保した。

【選択図】 図 1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

前方に行くに従って下方側に傾斜する金属製の商品陳列棚上に配置した商品を仕切るために、商品陳列棚上に商品陳列棚の前後方向に向いて載置されて用いられる商品仕切板であって、

長尺で平板状の基板部（２）と、該基板部（２）の裏面に装着されたマグネット（３）と、前記基板部（２）上に基板部（２）の面と直交する上方に向けて連設した長尺で平板状の仕切板本体（４）と、該仕切板本体（４）の前端部分に連設した、前記商品陳列棚の前面側に係止されたプライスカードレールの係合凹部に係合される係合部（５０２）を下端部近傍に有するストッパー部（５）と、を具備し、

10

前記仕切板本体（４）は、前記基板部（２）に連設される下端部（４０１）の前端部分から斜め前方に向けてテーパー状に立ち上がったテーパー部（４０２）を有するとともに、該テーパー部（４０２）の先端部分から上方に立ち上がったストッパー連設部（４０４）を有し、該ストッパー連設部（４０４）に前記ストッパー部（５）を連設し、前記係合部（５０２）と前記基板部（２）の前端部分との間に空間（６）を確保したことを特徴とする商品仕切板。

【請求項 2】

平面視野において前記仕切板本体（４）とストッパー部（５）とで略 L 字状あるいは略逆 L 字状になるような配置で、仕切板本体（４）の前端部にストッパー部（５）を連設したことを特徴とする請求項 1 に記載の商品仕切り板。

20

【請求項 3】

平面視野において前記仕切板本体（４）とストッパー部（５）とで略逆 T 字状になるような配置で、仕切板本体（４）の前端部にストッパー部（５）を連設したことを特徴とする請求項 1 に記載の商品仕切り板。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、スーパーマーケットやドラッグストアにおいて、前方に行くに従って下方側に傾斜する金属製の商品陳列棚（以下「傾斜棚」という。）の上に陳列された商品を仕切るために、傾斜棚上に傾斜棚の前後方向に向いて載置されて用いられる、裏面にマグネットを備えた商品仕切板に係り、より詳しくは、商品を傾斜棚上に傾斜棚と並行に配置しつつ、傾斜棚の前面側に係止されたプライスカードレールに係合可能とした商品仕切板に関する。

30

【背景技術】

【0002】

一般的にスーパーマーケットやドラッグストアにおいては、特に文房具等の展示に際しては、手前側に行くに従って下側に傾斜した金属製の商品陳列棚である傾斜棚が用いられることがあり、更に、これらの傾斜棚に陳列された商品を種類別等に区分けするために、裏面にマグネットを備えた、傾斜棚専用の商品仕切板が用いられている。

【0003】

40

ここで、前述のような傾斜棚専用の商品仕切板の従来例について説明すると、図 8 は従来の傾斜棚専用の商品仕切板を説明するための斜視図であり、図において 31 が、従来の傾斜棚専用の商品仕切板である。そして、この従来の商品仕切板 31 は、裏面にマグネット 35 が装着された長尺な平板状の基板部 32 を有している。

【0004】

そして、この基板部 32 の長手方向に沿った一側には、前記基板部 32 の長手方向寸法とほぼ同一寸法の長さを有する、長尺で平板状の商品仕切部 33 が、前記基板部 32 の面に対して直交する方向に連設されており、これにより、基板部 32 と商品仕切部 33 とで、正面視野で略 L 字状に構成されている。

【0005】

50

更に、前記基板部 3 2 の長手方向に向いた前端には、前記商品仕切部 3 3 の高さ寸法とほぼ同一の高さ寸法を有する平板状のストッパー部 3 4 が、前記基板部 3 2 の面に対して直交する方向に連設されており、これにより、基板部 3 2 とストッパー部 3 4 とで、側面視野で略 L 字状とされるとともに、ストッパー部 3 4 は前記商品仕切部 3 3 の端部にも、前記商品仕切部 3 3 の面に対して直交する方向に連結されている。

【0006】

そして、これを使用する場合には、傾斜棚の前後方向と基板部 3 2 の長手方向が並行になるようにして、基板部 3 2 を傾斜棚上に載置するのみでよく、それにより、マグネット 3 5 の磁力で商品仕切り板 3 1 が傾斜棚上に装着され、商品仕切部 3 3 によって傾斜棚上の商品を仕切ることが可能となる。

10

【0007】

ところで、従来から、商品陳列棚の前面側にプライスカードレールを装着することが行われているが、傾斜棚においてもプライスカードレールを装着することがあるため、前述の商品仕切板をプライスカードレールに装着できれば都合がよい。

【0008】

しかし、前述の商品仕切板をプライスカードレールに装着する場合には、ストッパー部 3 4 をプライスカードレールに係合する必要があるが、前述したように、傾斜棚専用の従来の商品仕切板 3 1 では、図 8 から明らかなように、ストッパー部 3 4 の下端部が基板部 3 2 に連設されているため、これをプライスカードレールに装着することは不可能である。

20

【0009】

この点、ストッパー部の下端部よりも上方において基板部とストッパー部を連結する方法が採用されており、これによれば、ストッパー部の下端部をプライスカードレールに係合することが可能だが、かかる場合には、基板部の前端側が上方に傾斜してしまうために、傾斜棚と平行な状態で商品を傾斜棚に載置することができない、という問題点が考えられる。

【特許文献 1】特開 2000-217675 号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0010】

そこで、本考案は、プライスカードレールに係合することが可能であるとともに、その際に傾斜棚上の商品を傾斜棚の面と並行に載置することが可能な傾斜棚専用の商品仕切板を提供することを課題としている。

30

【課題を解決するための手段】

【0011】

本考案の商品仕切板は、前方に行くに従って下方側に傾斜する金属製の商品陳列棚板上に配置した商品を仕切るために、商品陳列棚上に商品陳列棚の前後方向に向いて載置されて用いられる商品仕切板であって、

長尺で平板状の基板部と、該基端部の裏面に装着されたマグネットと、前記基板部上に基板部の面と直交する上方に向けて連設した長尺で平板状の仕切板本体と、該仕切板本体の前端部分に連設した、前記商品陳列棚の前面側に係止されたプライスカードレールの係合凹部に係合される係合部を下端部近傍に有するストッパー部と、を具備し、

40

前記仕切板本体は、前記基板部に連設される下端部の前端部分から斜め前方に向けてテーパー状に立ち上がったテーパー部を有するとともに、該テーパー部の先端部分から上方に立ち上がったストッパー連設部を有し、該ストッパー連設部に前記ストッパー部を連設し、前記係合部と前記基板部の前端部分との間に空間を確保したことを特徴としている。

【考案の効果】

【0012】

本考案の商品仕切板では、長尺で平板状の基板部と、この基端部の裏面に装着されたマグネットと、基板部上に基板部の面と直交する上方に向けて連設した長尺で平板状の仕切

50

板本体と、仕切板本体の前端部に連設した、プライスカードレールの係合凹部に係合される係合部を有するストッパー部とで構成されて、商品陳列棚上に商品陳列棚の前後方向に向いて載置される商品仕切板を前提とし、ストッパー部における係合部と、商品陳列棚上に載置される基板部の前端部分との間に空間を確保したことを特徴としている。

【0013】

そのため、本考案の商品仕切板では、基板部に邪魔されることなく、係合部をプライスカードレールに係合することが可能であるとともに、基板部の前端側が上方に傾斜することがなく、商品を陳列棚の面と並行に陳列棚上に載置することが可能である。

【考案を実施するための最良の形態】

【0014】

本考案の商品仕切板では、前記商品陳列棚上に棚板の前後方向に向いて載置される長尺で平板状の基板部を有しており、この基端部の裏面にはマグネットが装着されている。

【0015】

また、基板部上には、基板部の面と直交する上方に向けて、長尺で平板状の仕切板本体が連設されており、仕切板本体の前端部には、商品陳列棚の前面側に係止されたプライスカードレールの係合凹部に係合される係合部を下端部近傍に有するストッパー部が連設されている。

【0016】

そして、前記仕切板本体は、前記基板部に連設される下端部の前端部分から斜め前方に向けてテーパ状に立ち上がったテーパ部を有するとともに、テーパ部の先端部分から上方に立ち上がったストッパー連設部を有しており、このストッパー連設部に前記ストッパー部を連設し、これにより、ストッパー部における係合部と前記基板部の前端部分との間に空間を確保している。

【0017】

ここで、仕切板本体とストッパー部との連設の形態は特に限定されないが、例えば、平面視野において、仕切板本体とストッパー部とで略L字状あるいは略逆L字状になるような配置で仕切板本体にストッパー部を連設する形態、平面視野において仕切板本体とストッパー部とで略逆T字状になるような配置で仕切板本体の前端部にストッパー部を連設する形態が考えられる。

【実施例1】

【0018】

本考案の商品仕切板の実施例について図面を参照して説明すると、図1乃至図5は、本実施例の商品仕切板を説明するための図であり、図1は斜め手前側から見た斜視図、図2は斜め後方側から見た斜視図、図3は右側面図、図4は平面図、図5は正面図であり、図において1が本実施例の商品仕切板である。

【0019】

そして、本実施例における商品仕切板1は、傾斜棚上に載置される基板部を有している。即ち、図において2が基板部であり、本実施例においてこの基板部2は、透明あるいは半透明な樹脂製の長尺の平板状としており、長手方向の寸法は、約125mm、あるいは約175mmの長さとし、また幅方向の寸法は約25mmとし、使用に際しては、長手方向が傾斜棚の前後方向に向くようにして、傾斜棚上に載置される。

【0020】

また、前記基板部2の裏面にはマグネット3が装着されており、これにより、マグネットの磁力により、基板部2を傾斜棚上に固定可能としている。

【0021】

次に、前記基板部2の長手方向に沿った1側には仕切板本体が上方に向けて連設されている。即ち、図において4が仕切板本体であり、本実施例において前記仕切板本体4は、透明あるいは半透明な樹脂製の長尺の平板状としており、高さ寸法は、約73mm、あるいは約88mmとし、また、下端部401の寸法は、前記基板部2の長手方向の寸法とほぼ同一寸法としている。そして、仕切板本体4の面が前記基板部2の面と直交する形態に

10

20

30

40

50

において、下端部 401 の全域を前記基板部 2 の長手方向に沿った一側に、上方に向けて連設し、これにより、長手方向に見た断面形状が、基板部 2 と仕切板本体 4 で L 字状になるようにしている。

【0022】

そして、前記仕切板本体 4 の前端部には、商品陳列棚上に配置した商品が陳列棚の傾斜に沿って手前側にずり落ちてしまうことを防止するためのストッパーが連設されている。

【0023】

ここで、前記ストッパーについて説明すると、図において 5 が本実施例におけるストッパーであり、本実施例において前記ストッパー 5 は、透明あるいは半透明な樹脂製の平板状としたストッパー本体 501 を有しており、このストッパー本体 501 は、前記仕切板本体 4 の高さ方向の寸法とほぼ同一の高さ寸法とし、高さ方向に沿った一側を、前記仕切板本体 4 の前端部に、仕切板本体 4 の面とストッパー本体 501 の面が直交するような配置で連設しており、平面視野において仕切板本体 4 とストッパー本体 501 で略 L 字状になるようにしている。

【0024】

そして、前記ストッパー本体 501 の下端部近傍には、商品陳列棚の前面側に係止されるプライスカードレールの係合凹部に係合される係合部 502 を、前記基板部 2 側に突設している。

【0025】

ここで、前記仕切板本体 4 における前記下端部 401 は、前述したように、前記基板部 2 の長手方向の寸法とほぼ同一の寸法としており、その下端部 401 の前端部分から斜め前方に向けて、テーパ状に立ち上がったテーパ部 402 を有している。

【0026】

そして、テーパ部 402 の先端部から前方にわずかに延出して水平部 403 を形成し、この水平部 403 の先端部から上方に向けて立ち上がって、この上方に立ち上がった部分をストッパー連設部 404 とし、このストッパー連設部 404 に、前記ストッパー 5 が連設されている。

【0027】

従って、図 1 乃至図 4 に示されるように、本実施例の商品仕切板 1 では、ストッパー部 4 における係合部 502 と基板部 2 の前端との間に空間 6 を確保することができる。そのために、基板部 2 に邪魔されることなく、係合部 502 をプライスカードレールに係合することが可能であり、また、基板部 2 の前端側が上方に傾斜することがなく、陳列棚の面と並行な状態で、商品を陳列棚に載置することが可能である。

【0028】

なお、本実施例においては、ストッパー連設部 404 の上端から後方に向けて、前記基板部 2 とほぼ水平な上端部 405 を有しており、この上端部 405 は、後方に向けて斜め下方にテーパ状とした後方テーパ部 406 を介して、前記基板部 4 の後端から上方に立ち上がった後端部 407 につながっている。但し、本考案において仕切板本体 4 は必ずしもこのように構成する必要はなく、後方テーパ部 406 を形成することなく、上端部 405 と後端部 407 を直接連結しても良い。また、前記水平部 403 は必ずしも必要なものではなく、テーパ部 402 の先端部から直接ストッパー連設部 402 を連設してもよい。

【0029】

次に、このように構成される本実施例の商品仕切板 1 の作用について、図 6 を参照して説明すると、図 6 は、傾斜棚の前面側にプライスカードレールに係止して、更に、このプライスカードレールに本実施例の商品仕切板 1 を係合させた状態の断面構造を示しており、図 6 において 11 が傾斜棚である。

【0030】

そして、この傾斜棚 11 の前面側には、傾斜棚 11 の幅方向に沿って形成された係止溝 12 が備えられており、この係止溝 12 に係止される形態で、傾斜棚 11 には、商品のプ

10

20

30

40

50

ライスカードやポップ広告等を傾斜棚 1 1 に装着するためのライスカードレール 1 3 が係止されている。

【0031】

ここで、前記ライスカードレール 1 3 は、互いに下端部分で回動自在に連結された正面板 1 3 0 1 と背面板 1 3 0 2 とを備えることによって、ライスカード等を挟持可能な挟持部 1 3 0 3 が形成されている。また、前記背面板 1 3 0 2 の先端部には、背面板 1 3 0 2 の背面側に配置されるようにして支持板 1 3 0 4 が連設され、この支持板 1 3 0 4 の下端部分には、傾斜棚 1 1 の前面側に形成された係止溝 1 2 内に挿入可能な挿入部 1 3 0 5 が連設され、更に、支持板 1 3 0 4 における背面側任意の箇所には、係合凹部 1 3 0 6 が備えられており、傾斜棚 4 の前面側に形成された係止溝 1 2 内に前記挿入部 1 3 0 5 を挿入して、傾斜棚 1 1 に係止されている。

10

【0032】

そして、本実施例の商品仕切板 1 は、傾斜棚 1 1 の前面側にライスカードレール 1 3 を係止した状態において、基板部 2 の長手方向が傾斜棚の前後方向に向くような配置で傾斜棚上に載置されるとともに、図 6 に示すように、ライスカードレール 1 3 の係合凹部 1 3 0 6 内に係合部 5 0 2 を係合することで、ライスカードレール 1 3 に係合させることが可能であり、これにより、傾斜棚 1 1 上に固定され、傾斜棚 1 1 の前後方向に向けて仕切板本体 4 が配設されることとなり、傾斜棚 1 1 上で商品の仕切りを行うことが可能となり、更に、ストッパー部 5 により、傾斜棚上に配置した商品が傾斜棚の傾斜に沿って手前側にずり落ちてしまうことを防止することができる。

20

【0033】

即ち、商品仕切板をライスカードレールに装着する場合には、ライスカードレールの係合凹部に係合可能な係合部を有する必要があるところ、従来の傾斜棚用の商品仕切板ではストッパー部が基板部に連設されているために、ライスカードレールの係合凹部に係合可能な係合部を備えることができなかった。

【0034】

しかし、本実施例の商品仕切板 1 では、前記仕切板本体 4 において、基板部 2 に連設される下端部 4 0 1 の前端部分から斜め前方に向けて、テーパー状に立ち上がったテーパー部 4 0 2 を有し、このテーパー部 4 0 2 の先端部分から上方に向けて立ち上がったストッパー連設部 4 0 4 を有し、このストッパー連設部 4 0 4 に、ライスカードレール 1 3 に係合されるストッパー 5 を連設しており、これにより、ストッパー部 4 における係合部 5 0 2 と基板部 2 の前端との間に空間 6 を確保しているため、基板部 2 に邪魔されることなく、ストッパー部 5 における係合部 5 0 2 をライスカードレール 1 3 の係合凹部 1 3 0 6 に係合することができるようになった。

30

【0035】

また、基板部 2 の前端側が上方に傾斜することもないため、商品を傾斜棚の面と並行に載置することが可能であり、更に、基板部 2 の裏面にはマグネット 3 を装着しているために、商品仕切板 1 を傾斜棚 1 1 上に確実に固定することも可能である。

【0036】

このように、本実施例の商品仕切板 1 では、ストッパー部 4 における係合部 5 0 2 と、基板部 2 の前端との間に空間 6 を確保しているために、基板部 2 に邪魔されることなく、ストッパー部 5 における係合部 5 0 2 をライスカードレール 1 3 の係合凹部 1 3 0 6 に係合することができるとともに、基板部 2 の前端側が上方に傾斜することもないために商品を傾斜棚面と並行に載置することが可能である。

40

【0037】

なお、前述の説明では、長手方向に見た断面形状が、基板部 2 と仕切板本体 4 の面で L 字状になるように配置するとともに、平面視野において仕切板本体 4 とストッパー本体 5 0 1 で略 L 字状になるようにした形態を説明したが、必ずしもこの形態には限定されず、長手方向に見た断面形状が基板部と仕切板本体で逆 L 字状になるように配置するとともに、平面視野において仕切板本体とストッパー本体で逆 L 字状になるようにしてもよく、あ

50

るいは、図7にも示されるように、長手方向に見た断面形状が基板部と仕切板本体で逆T字状になるように配置するとともに、平面視野において仕切板本体とストッパー本体で逆T字状になるようにしてもよい。

【産業上の利用可能性】

【0038】

本考案の商品仕切板は、前方に行くに従って下方側に傾斜する金属製の商品陳列棚の前面にプライスカードレールを係止した場合に、そのプライスカードレールに係合可能としているために、プライスカードレールに係止する可能性のある傾斜棚に用いられる商品仕切板の全般に適用可能である。

【図面の簡単な説明】

10

【0039】

【図1】本考案の商品仕切板の実施例を示す斜視図である。

【図2】本考案の商品仕切板の実施例を示す斜視図である。

【図3】本考案の商品仕切板の実施例の右側面を示す図である。

【図4】本考案の商品仕切板の実施例の平面を示す図である。

【図5】本考案の商品仕切板の実施例の正面を示す図である。

【図6】本考案の商品仕切板の実施例の作用を説明するための図である。

【図7】本考案の商品仕切板の他の形態を示す斜視図である。

【図8】従来の傾斜棚用の商品仕切板を説明するための図である。

【符号の説明】

20

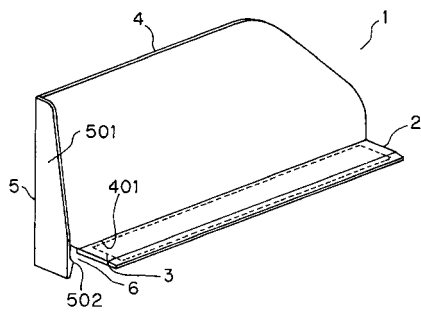
【0040】

- 1 商品仕切板
- 2 基板部
- 3 マグネット
- 4 仕切板本体
- 401 下端部
- 402 テーパー部
- 403 水平部
- 404 ストッパー連設部
- 405 上端部
- 406 後方テーパー部
- 407 後端部
- 5 ストッパー
- 501 ストッパー本体
- 502 係合部
- 6 係合部と基板先端との間の空間
- 11 傾斜棚
- 12 係止溝
- 13 プライスカードレール
- 1301 正面板
- 1302 背面板
- 1303 挟持部
- 1304 支持板
- 1305 係止部
- 1306 係合凹部

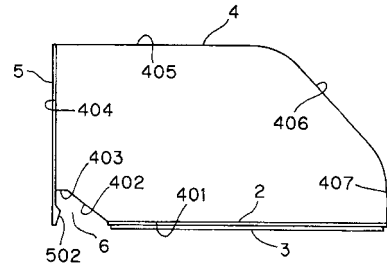
30

40

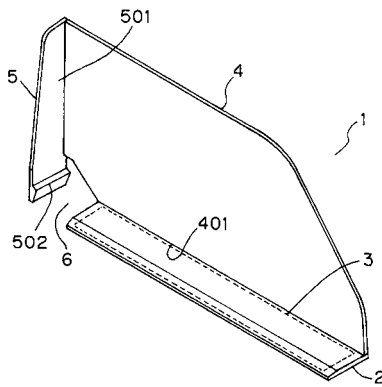
【図 1】



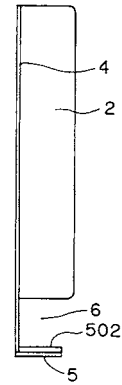
【図 3】



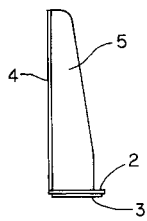
【図 2】



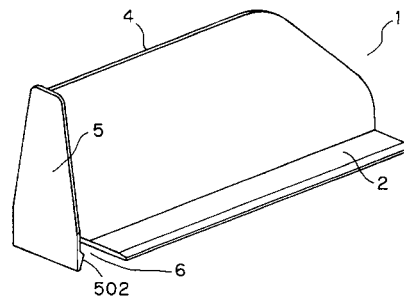
【図 4】



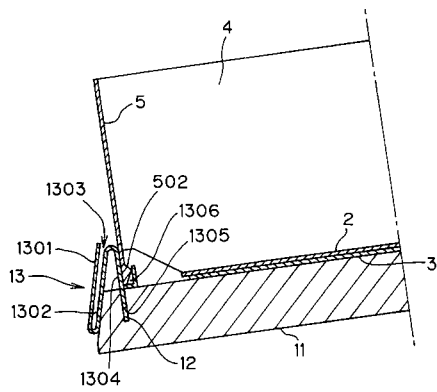
【図 5】



【図 7】



【図 6】



【図 8】

